

1. はじめに

2011年3月11日に東日本大震災を経験した東北地方が復旧・復興活動で注目を集めているなか、本研究では、日本三景の松島の観光動向に着目することとした。松島は他地域と比べ津波被害は軽微であるにも関わらず観光入込客数が減少している。宮城県内人気観光地を「るるぶ」より上位3位を調べ比較したところ、松島エリア以外の仙台エリア、蔵王エリアは、震災前とほぼ同水準の入込客数を確保している。

本研究は、観光地である「おもて松島（うら松島は対象外）」を対象地域とし、webアンケート調査を実施し、松島の観光客の減少要因を把握し、要因に基づいた観光客増加対策を検討することが目的である。

2. 松島の観光ポイントと津波浸水域

松島の観光ポイントは、「るるぶ」の口コミランキングによる人気スポットの「歴史・文化」、「自然」の3位までとした。図-1には観光ポイントと津波浸水域を示した。町民の人的被害は、死者3人（町内で死亡、直接死2人・関連死1人）、行方不明者0人であり、他市町村と比べ被害は小さい。

3. 想定される減少要因の想定とアンケート概要

(1) 想定される減少要因の想定

本研究では、既存資料や報道より、次の項目を観光客減少要因と想定する。

要因1: 原発により食品・観光による心配(風評被害)

要因2: 交通利便性の低さ

要因3: 地震・津波の被害による安全面の心配

(2) アンケート調査概要

アンケート調査では、個人属性や旅行行動別の1)松島の問題点、2)松島の震災前後での震災意識、3)新たな施設・サービスによる来訪意向の変化を把握し、観光客減少要因を分析する。調査項目は、既往研究¹⁾²⁾を参考に設定した(表-1)。本調査では、松島に来訪したことのある人、来訪の可能性のある人を対象とでき



図-1 松島の観光ポイントと津波浸水域

表-1 アンケート調査項目

	項目	設問
個人属性	個人属性	・性別(選択)・年齢(選択)・居住地(記入)
	松島への震災前後の来訪回数	・1回だけ・2回以上・ない ・1回だけ・2回以上・ない
	松島への震災前後の同行者	・一人・友人・家族・学校の団体・地域の団体・職場の団体 ・一人・友人・家族・学校の団体・地域の団体・職場の団体
松島の旅行行動	松島への震災前後の来訪目的	・観光(歴史系)・観光(自然系)・グルメ・ボランティア・その他 ・観光(歴史系)・観光(自然系)・グルメ・ボランティア・その他
	来訪目的で観光(歴史)を選んだ方	・円通寺・五大堂・瑞巖寺・みちのく伊達政宗歴史館・松島博物館・その他口
	来訪目的で観光(自然)を選んだ方	・水族館・双観山・扇谷・福浦島・西行長りの松公園・遊覧船・その他口
	来訪目的で観光(グルメ)を選んだ方	・かき・お寿司・アナゴ丼・海鮮丼・牛タン・その他
	松島への震災前後の交通手段	・自家用車・鉄道・路線バス・観光バス・タクシー・その他(記述) ・自家用車・鉄道・路線バス・観光バス・タクシー・その他(記述)
松島の問題点	松島での震災前後の滞在日数	・日帰り・一泊二日・二泊三日・それ以上 ・日帰り・一泊二日・二泊三日・それ以上
	アクセスの問題	
	安全面の問題	
松島の震災前後の意識	観光資源の魅力	
	震災前のイメージ	
	震災後のイメージ	
サービス・施設による意識変化	松島の津波や原発の被災印象	
	対策を講じた場合印象が変わるか 印象が変化した場合増えるか 震災の教訓、地域の風土を後世に 継承する施設(ミュージアム等) 「ジオパーク構想(地域全体を学び楽し む自然の中の公園)」や「三陸復興 国立公園(仮称)」	5段階評価・わからない
その他	調査項目以外に問題点や改善点があれば記述	自由記述

るようweb調査を採用した。調査期間は2014年12月～2015年1月とした。有効回収数は150票の内145票である。

4. 観光客減少要因の把握

(1) 観光客減少要因の把握

回答者の性別は、男性63%、女性36%であり、男性の回答が多かった。回答者の居住地は県内が67%と多く、県外は33%であった。旅行行動で震災前後に変化した項目は、同行者、交通手段、イメージの3つであった。同行者については、震災前は友人や家族で訪れる人が多かったが、震災後では友達や家族が減り職場の

団体で訪れる人が多くなった。交通手段については、観光バス利用が多くなった。イメージについては震災前では県内・県外ともに良いイメージをもっていることがわかったが震災後では県外からのイメージが悪くなっていることが明らかになった。

松島の問題点では、アクセスについての評価が低く、原因としては県内の方が自家用車で訪れる際に渋滞や駐車場の有無などのことからだと考えられる。観光資源の魅力では、多くが高評価をしており、安全面に対しての配慮はどちらともいえないという評価が多い。

(2) 想定される要因の分析

図-2に、原発の風評被害（想定要因1）に関し、居住地別・年齢階層別の原発の被害印象を示した。県内は全体的に「ひどくない」という回答が多いが、県外では「とても・ややひどい」という回答が多い。県内では松島の現状を理解している人が多いが、県外の人には実際には被害が小さいのにもかかわらず被害を受けたと認識している（風評被害）といえる。年齢階層別みると、高齢の人の方が被害を認識している。

図-3に、交通利便性の低さ（想定要因2）に関し示した。県内の人には自家用車で来訪するため、渋滞や駐車場の有無に不満を持っていると考えられる。県外の人には、震災後鉄道が復旧したため不満を持っていない。

図-4に、地震・津波の被害（想定要因3）に関し示した。県内から訪れた人よりも、県外から訪れた人の方が津波・地震の被害を大きく受けたと認識している。高齢の人の方が被害を認識している。

5. 観光客増加対策に対する考察

(1) 観光客増加対策に対する考察

アンケート調査の分析結果より、居住地により行動や意識が異なることから県内と県外で対策を検討する。県内の人には、震災前後のイメージや意識に変化はあまりなく松島の被害が少ないという実態を理解しているといえる。しかし、自家用車で訪れる人はアクセス面での不満を抱いているため、他の交通手段の導入、自動車によるアクセス性の向上を検討する。震災ミュージアム、ジオパーク等の新サービス・施設については「どちらでもない」という回答が多かったため、今後、構想の具体化を踏まえた検討が必要である。

県外の人には、震災前後のイメージや震災被害を実態以上に大きく受け止めており、風評被害の影響を受け

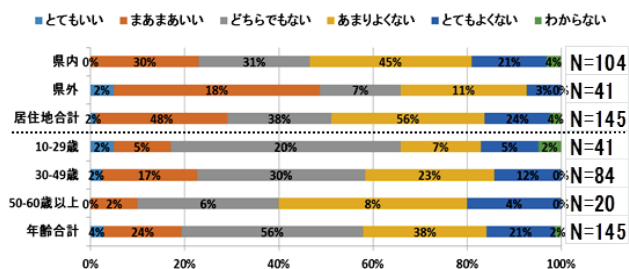


図-2 居住地・年齢別の原発被害印象

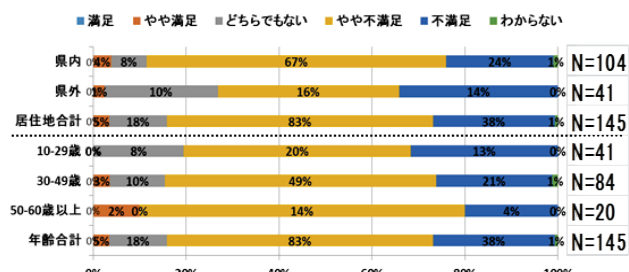


図-3 居住地・年齢のアクセスの便利さ

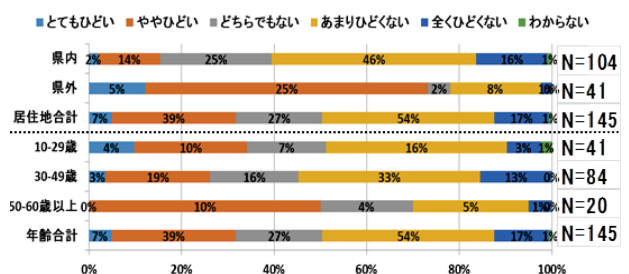


図-4 居住地・年齢別の津波・地震被害

たとえられるため、県外の観光客に松島の現状を知ってもらうようニュースなどのメディアを使う以外にも現代の人々に強い影響力をもたらすSNS・ブログ・YouTubeなどを活用していく対策を考える。一方で、高齢の人の方が被害を大きく認識している傾向があるため、ITを活用した情報提供に加え、紙媒体での広報の検討の必要があると考えられる。

(2) 研究展開

今後、震災前後の旅行行動、旅行行動と問題点の関係、震災意識、新たなサービス・施設に着目した分析を進めていくこととする。

参考文献

- 1)堀口恭兵・中川三朗：街並みに対する観光客の意識実態についての一考察，土木学会年次学術講演会講演概要集第4部，Vol.60，4-251，2005年
- 2)角田美佳アンケートを用いた赤城山観光復興策の考察，東洋大学国際観光学科卒業論文要旨，2011
- 3) DeMond Shondell Miller : "Disaster tourism and disaster landscape attractions after Hurricane Katrina: An auto - ethnographic journey", Vol. 2 Iss: 2, pp. 115-131, 2008